■石宙明(ソク・チュミョン)　韓国の蝶の研究者，済州島自然文化研究の先駆者。朝鮮戦争による悲劇な最期で，絵本や教科書に。
そくちゅみょん
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝　　日本の植民地下の大韓帝国の南平安道平壌で生まれる。
伊藤博文暗殺1909＝ 1歳：この年，鹿児島高等農林学校が設立され，岡島銀次が教授に就任している。

明治天皇没・1912＝ 4歳：
平壌の繁華街に大きなレストランを経営する裕福な実業家で，事業で稼いだ金で独立運動を支えるほど民族意識が強か父と，当時貴重だったタイプライターを入手するほど教育熱心な母のもと，幼い頃から家で鳩や兎を育てる動物好きに育ち，

ロシア革命・1917＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝13歳：岡島は，翌年にかけて，九州帝国大学教授も兼任し，農学部昆虫学教室を設立。長老派の宣教師ベアードが設立した宋実高師範学校に入学するが，同盟の休学に加わり，開城(ケソン)の松島高等師範学校に転校，さらに，慶尚北道の大邱高等農林学校に転校，親から離れていたため，送られてくる生活費を，夢中になった音楽につぎ込んだりしながら，

円本時代始・1926＝18歳：卒業。やがて，目が覚めて集中的に学習し，_日本を代表する農業学校鹿児島高等農林学校(現，鹿児島大学農学部)に入学，岡島銀次の講義を受けるうちに次第に生物の研究に興味を抱くようになり，

世界恐慌・・1929＝21歳：_得業(卒業)論文に，リンゴの木につく害虫″リンゴドクガ″を書いて卒業。岡島は，何百もの標本を丁寧に紙で包み，正確に採集記録を書いて昆虫分類学の才能を見いだし，日本では差別のために学者になれないと悩んでいたところ，’朝鮮人として朝鮮半島の蝶の研究をすべきだ。10年間必死にやってみよ’と勧められ，当時朝鮮一の施設を誇る開城(ケソン)の松島高等普通学校に生物教師として就職。同校に勤務しながら，蝶の研究に没頭，全国を旅して採集して標本にし，日本の動物学者による蝶の誤った分類を修正して行く。
満州事変・・1931＝23歳：
自分の論文に手紙をくれた九州大学教授で昆虫学の大家江崎悌三と，交流し始めアドバイスも受け，
芥川直木賞始1935＝27歳：
二二六事件・1936＝28歳：済州島でひと夏を過ごし，思い出の地になる。福岡市の江崎の自宅で，チョウの分類について議論。
日中戦争始・1937＝29歳：
_「個体差による分布曲線理論」を作成して，生物学的分類学の新しい章を開き，当時の日本の動物学者が，わずかに異なる特性を持つ蝶は新種であるとして，韓国の蝶の種数を844と誇張していたのを，韓国の蝶は248種であると訂正し。世界に約30人の会員しかいない世界蝶協会の会員になり，
第二次大戦始1939＝31歳：_岡島との約束の10年目，研究の集大成となる英文の大著「朝鮮産蝶類総目録」を完成させて，
大政翼賛会・1940＝32歳：「韓国の同義語リスト・蝶」。*英国王立アジア協会から出版，植民地支配下出身者が科学的な成果を国際的に発表するのは異例と言われるほど，当時としては画期的な成果で，国際的にも高い評価を得た。
日米開戦・・1941＝33歳：
・・・・・・1942＝34歳：以後2年，岡島は日本昆虫学会会長。
創価学会検挙1943＝35歳：_旧京城帝国大学が付属の生薬研究所済州島試験場を開設するや，自ら志願して所長として着任，約2年間過ごしながら，多くの史料等を蒐集するなど，済州の文化と自然の研究に邁進。
年金+総武装 1944＝36歳：
敗戦・・・・1945＝37歳：_水原農業試験場病理昆虫部長になったところで，日本が敗戦。ソウルにあった国立科学博物館動物学部長に就任後も，朝鮮半島のチョウの分布を網羅した本を出版するため研究を続け，最終的には，75万匹以上の蝶を収集して標本にし，その分類について80以上の論文を書き，すべての結果をまとめて作成した地図「韓国蝶分布図」は，世界的名作の一つとされている。新種として発表した2種のチョウには，岡島にちなんで″オカジマミスジ″″ギンジシジミ″という和名をつけている。
新憲法施行・1947＝39歳：韓国登山協会の独島の学術調査に参加。言語学者として，_「済州島方言集」，
極東裁判決・1948＝40歳：_「済州島生活調査書」，
三大事件・・1949＝41歳：「エスペラント語国際言語の教科書」。故郷が平壌であったためか，北朝鮮よりの(元)民主人民党文化芸術行政特別委員を務めている。*「済州島関係文献集」等の6冊にまとめ，後に「済州島総書」と呼ばれるようになるとともに，″済州島学の先駆者″と呼ばれるに至る。その間，蝶の研究も続けていたが，
朝鮮戦争始・1950＝42歳：_朝鮮戦争が勃発，ソウル科学館が爆撃され，20年間に収集してきたた蝶の標本は灰燼に帰し，衝撃を受けて絶食中，ソウル市内で，酔っ払った韓国軍の兵士に撃たれ，没した。恩師岡島銀次にも先立つ短い生涯ながら，元祖″おたく″精神で蝶研究を究め，さらに済州島研究まで開拓した一生であった。
ソクの伝記を書いたユンによれば，撃たれたのは，’ピョンヤン出身のため朝鮮半島北部の方言があり，北朝鮮の軍人と間違われて殺された’というのが通説。「韓国蝶分布図」は，妹ソク・ジュソンが疎開する際に持ち出して無事(後年出版される)，約50点の遺物と関連史料とともに，丹国大学のソクジュソン記念博物館に保管されている。その後，絵本や教科書の題材になり，″韓国のファーブル″とも呼ばれようになる。2024年，日韓の研究者たちが合同で，九州大学の標本室を調査したところ，所蔵されていた戦前の朝鮮半島の標本の中に，ソク・チュミョンの名前が書かれた昆虫標本が見つかり，標本のラベルには’石宙明氏寄贈’と記されいた。朝鮮半島では北朝鮮にしか分布しないベニヒカゲの仲間や，生息域が狭まって個体数が減少しているとされるシータテハなどの標本35種129点。いずれも100年近く前に採集されたもの，戦前の朝鮮半島の昆虫標本はほとんど残っておらず，極めて貴重な標本ということも分かり，それら標本を韓国に移管することを決め，国立生物資源館に里帰りを果たし，ソクの標本や功績などを紹介する展示会も開かれた。また，2020年，ソクの勤めた旧京城帝国大学付属生薬研究所済州島試験場が，建築史的な意味が高いだけでなく，済州島の地域史の上でも重要であると，韓国の国家登録文化財に指定されている。

韓国のWikipedia「ソク・ジュミョン(ハングル)」を自動翻訳したものをベースに，NHKホームページ2025年3月15日記載の「″失われた標本″ なぜ日本に? 昆虫学者100年の物語」，在済州日本国総領事館ホームページの記事で追補，